炎と水❶

燃えさかる炎に追われ、逃げ惑う人々。熱さに耐えかね、あるいは水を求めて、川に飛び込んだ人の多くは、そのまま息絶え流されました。流れの緩やかなところには川面を覆いつくすほどたくさんの遺体が、淀みには何日も同じ遺体が浮かんでいました。

「いたいよ、たすけてェ」

❶吉山正子　❷13→43
❸8/6　❹鶴見橋
劫火に包まれ助けを求める級友

火の海の中

❶道辻芳子　❷19→48
❸8/6　❹鶴見橋付近
炎をかいくぐり、自宅に向かって逃げる。

黙々と避難する人々

❶吉岡満子　❷18→48
❸8/6　❹三篠町一丁目
まるで生命のない人の行列のように、走るでもなく歩くでもなく無表情のまま、ただ黙々と炎に追われていた。